

能登へ2団体が義援金

豊岡市医師会、ボーイスカウト



①関貫市長(左)に募金箱を手渡す団員ら②関貫市長(右)に義援金を手渡す川端会長(いずれも豊岡市役所で)

能登半島地震の被災地支援に役立ててもらおうと、豊岡市医師会と日本ボーイスカウト兵庫連盟豊岡第2団は、それぞれ豊岡市役所を訪れ、100万円と約5万7000円を義援金と



して市に寄附した。市医師会は、川端強会長らが会員有志から募った義援金を関貫久仁郎市長に手渡した。川端会長は、病院も被災し、看護師も不足していると聞く。多くの会員が協力してくれたと話した。ボーイスカウト豊岡第2団は、今月10日にコープデイズ豊岡で団員らが募金活動を実施。安積英二・団委員長ら7人が募金箱を関貫市長に託し、カブスカウト所属の市立五荘小4年田中咲帆さんが、ボーイスカウトの日本大会が2006年と18年に石川県珠洲市で開催されたことに触れながら、「一日も早い復興を心より願っています」とメッセージを伝えた。

能登地震災害支援

豊岡市医師会が義援金に100万円

豊岡市医師会は、同市と市区長連合会が合同で募つ

関貫久仁郎市長に義援金を届けた豊岡市医師会の川端強会長(左)と豊岡市役所

ている「能登半島地震災害義援金」に、100万円を寄せた。医師会の川端強会長が同市役所を訪れ、関貫久仁郎市長に義援金を手渡した。医師会の呼びかけに応じた会員31人が協力した。川端会長は「被災地では医師や看護師ら病院スタッフも大変な状況で頑張っておら

れ、同じ医療関係者として何か支援をしたかった。医療現場にも届けばうれしい」と思いを語った。市によると、義援金の送り先は今後決める。2月21日には、日本ボーイスカウト兵庫連盟豊岡第2団のメンバーも市役所を訪れ、5万7036円を託した。

(阿部江利)